

緊急事態宣言下の救護員辞令交付式

日本赤十字社兵庫県支部 事務局長 大久保 博章

4月から続いている緊急事態宣言。たとえ新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況下であっても、赤十字活動は続けなければならない。いつ起こるか分からない自然災害。今年は統計史上最も早い梅雨入りとなった。梅雨入りが早いと梅雨明けも早いのかというと、そうでもないらしい。過去の統計では、例年より遅く7月下旬になっている。今年は例年以上に梅雨の大雨に気を付けなければならない。

支部では、自然災害に備えて、赤十字救護員の辞令交付を毎年5月に施設単位で行っている。災害時に派遣する救護班は基本6名、医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名となっており、各病院に、姫路8班、多可2班、神戸5班を編成している。これらの要員として、236名(うち新規27名)の職員が登録されており、5月12日には神戸赤十字病院、5月24日には姫路赤十字病院において、新規に救護員になる職員に辞令交付を行った。参加者全員、赤十字の救護服。私自身も久しぶりに救護服を着て、身の引き締まる思いで、「コロナ禍の今、私たちが最も期待と信頼を受けている。どのような状況下においても、感染対策を万全にして赤十字の使命と責任を果たしてほしい。」と挨拶をした。

コロナの影響で多忙を極める病院現場の中で救護員になるのは、高い使命感の表れであり、感謝と期待を込めて一人ひとりに辞令を手渡した。

本来なら、5月中に主事研修、救護員研修を三木の支援センターで実施し、6月の第4ブロック(近畿)合同防災訓練に参加し、経験を積んで本番に備えるところであるが、今年は研修を延期、訓練は中止になった。

平成30年6月の大阪北部地震や7月の西日本豪雨災害、また毎年のように起こる九州北部豪雨など、梅雨の時期に救護班の派遣があるかもしれない。

新しく救護員に任命された職員にとっては、まさにぶっつけ本番になるかもしれないが、ベテラン職員の指導のもとしっかりと役割を果たしていただけることを期待しています。



▲神戸赤十字病院救護員辞令交付式



▲姫路赤十字病院救護員辞令交付式

令和3年度 赤十字ポスターコンクールのご案内

募集対象およびテーマ

たくさんのご応募、
お待ちしております!!

小学生: 「赤十字のお仕事」

中学生: 赤十字の「病院事業」「血液事業」「救急法などの講習」

「看護師などの教育」

高校生: 赤十字の「災害救護活動」「国際活動」「救急法などの講習」

応募メチ

9月10日(金)まで ※当日消印有効

★詳しい応募要項はHPから → <http://www.hyogo.jrc.co.jp/>

赤十字 兵庫 検索



▲令和2年度の最優秀作品



姫路赤十字病院「PET・コミュニティ棟」がオープンしました



当院では、来院者の皆様のアメニティ充実と診療機能の強化を目的に、令和2年5月より病院敷地内北西側に新棟の建築工事を進めていました。3月末に完成し、5月28日(金)にオープニングセレモニーを開催しました。

オープンは、1階放射線科と3階多目的・交流センターが令和3年6月1日。放射線科には、最高水準のPET-CT、次世代型3テスラMRIを設置。多目的・交流センターは、講演会・セミナーの開催や、患者・住民が気軽に相談ができ、情報収集できる場所として設置されました。利用者のニーズに応えられるような場を提供できることを目指しています。当面の間、3階多目的・交流センターは、新型コロナウイルスワクチン接種及びPCR検査等で使用する予定です。

また、2階テナントは令和3年7月を予定しています。



建設概要「PET・コミュニティ棟」
1階:放射線科(PET-CT/MRI)
2階:テナント(喫茶・レストラン/敷地内薬局)
3階:多目的・交流センター(多目的ホール/相談支援センター/図書・情報コーナー)

Zoomを使った赤十字オンライン講習のご案内

オンライン講習タイトル	内容	開催日	時間
あなたは大切な人を救えますか?	【救急法】一次救命処置	7月27日(火)	10:30~11:30
こどもにAEDって使えるの?	【幼児安全法】乳幼児の一次救命処置	7月27日(火)	14:00~15:00
ちょっと知ってみたい。認知症 ☆	【健康生活支援講習】地域で支える認知症	8月5日(木)	10:30~11:30
みんなで学ぼう応急手当	【救急法】きずの手当	8月5日(木)	14:00~15:00
あなたは大切な人を救えますか?	【救急法】一次救命処置	8月7日(土)	10:30~11:30
みんなで学ぼう応急手当	【救急法】きずの手当	8月7日(土)	14:00~15:00
こどもにAEDって使えるの?	【幼児安全法】乳幼児の一次救命処置	8月24日(火)	10:30~11:30
あなたは大切な人を救えますか?	【救急法】一次救命処置	8月24日(火)	14:00~15:00

☆印の講習は講義のみです。それ以外は実技を含みます。
※企業や各種団体でも赤十字オンライン講習にお申込みいただけます。必要に応じて上記日程以外でも開催することができますので、当支部救護課講習係にご連絡いただき、社内研修等にご活用ください。

申込み <https://www.hyogo.jrc.or.jp/lecture/online/>



▲幼児安全法「乳幼児の一次救命処置」

対面式での講習については、支部ホームページをご確認ください

講習についての最新情報につきましては、ホームページにて随時発信しています。ホームページにてご確認いただくかお電話にてお問い合わせください。

講習に関するお問い合わせ **Tel.078-241-1499**

ホームページ(講習のページ) <https://www.hyogo.jrc.or.jp/lecture/>

遺言・相続財産・お香典でのご協力について

「自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」といったご相談や、大切な方を亡くされたご遺族から、「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」というお申し出が増えています。日本赤十字社では、このような尊いご意思に応えるために、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っております。お問い合わせは ☎0120-078-456(振興課)まで

※隔月(奇数月)に発行しています。

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区臨海通1丁目4番5号 TEL.078-241-9889 FAX.078-241-6990

赤十字 兵庫 検索 <https://www.hyogo.jrc.or.jp/>

ひょうごの赤十字 7月号 [2021年7月1日発行]

ひょうごの
赤十字+

2021

7

新型コロナウイルス感染症 第4波

～看護の現場から～



▲神戸赤十字病院 新型コロナウイルス感染症専門病棟カンファレンス

- 神戸市立葺合中学校からの応援メッセージ
- 新型コロナウイルス感染症 第4波 看護の現場から
- コラム:緊急事態宣言下の救護員辞令交付式
- 令和3年度赤十字ポスターコンクールのご案内
- 姫路赤十字病院「PET・コミュニティ棟」がオープンしました



応援メッセージありがとうございます♡

神戸市立葺合中学校75回生(現3年生)の皆さんから赤十字への応援メッセージと、募金活動にて集めていただいた活動資金をいただきました。

昨年秋(2年生時)の「トライやる・プロジェクト」として、兵庫県赤十字血液センターの実施している「献血セミナー」を受講していただいたことがきっかけで赤十字の事業を詳しく学び、募金活動と赤十字への応援メッセージ作成を提案して下さったとのこと。

心のこもったたくさんのメッセージを赤十字マークのように配置していただき感謝です!

一つは日本赤十字社兵庫県支部合同庁舎の玄関に、もう一つは神戸赤十字病院に掲示させていただいています。本当にありがとうございました!!



いのちと健康を守る赤十字活動は
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。
活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます
口座記号番号:01110-0-1136
口座加入者名:日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。

姫路赤十字病院 チーム医療で母体・胎児の命を守ります

姫路赤十字病院 看護部長 駒田 香苗

当院が2020年3月に初めての感染者を受け入れてから、1年以上が経過しました。今回の第4波は、これまでの中で最も厳しいものになっています。特に今回は、若い人でも重症化することが多くなっています。当院は総合周産期母子医療センターという機能を持っていることから、姫路市内だけでなく県内各地から感染した妊婦さんの入院を受け入れています。中には妊婦さんの呼吸状態が悪化し、予定日よりも大分早く帝王切開というケースもありました。今回は、特に感染された妊婦さんへの医療・看護について紹介させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の妊婦さんには、安全に出産していただけるよう何度も多職種でカンファレンスを行い、最善の治療法を検討しています。妊婦さんには特に胎児への影響を考え、薬剤投与も慎重にしなければなりません。妊婦さんには、産婦人科医師・内科医師・小児科医師と助産師・看護師が、新生児には小児科医師・NICU(新生児集中治療室)やGCU(新生児回復室)の看護師が24時間専門的に治療・看護にあたっています。助産師や看護師は重症肺炎の予防のために、患者さんに腹臥位(うつ伏せ)になっていただくようお願いしています。しかし、大きなお腹の妊婦さんには腹臥位は出来ませんが、側臥位(横向き)になっていただくなど、少しでも肺炎が重症化しないように妊婦さんに協力していただきながらサポートをしています。

本来なら新しい家族が増える一番幸せな時に、感染症病棟に1人で過ごしていただく事となり、待望の我が子をしばらく抱っこすることも出来ないお母さんの気持ちを思うと、とても辛い現実です。しかし、幸いこれまで入院された方全員が無事出産され、母子ともに元気に退院されています。元気で生まれてくれた赤ちゃんや、お母さんになられた患者さんが回復され退院される事は、私たち医療従事者にとってもとても嬉しくやりがいを感じる瞬間です。

私たち医療従事者は、感染された患者さんの治療・看護を、24時間体制で行っています。しかし、一人ひとりが感染を予防する事が1番重要です。ウイルスは変異を繰り返しますし、目に見えないため家族間でも簡単に感染してしまいます。ご自身の体もそうですが、ご家族の命もおびやかされる事につながりかねません。不自由な生活がまだまだ続きますが、どうか感染予防対策をご家庭の中でも職場でも継続していただきますようお願いいたします。



※写真はイメージで、コロナ感染の患者さんではありません。

多可赤十字病院 赤十字のネットワークに支えられ、 新型コロナウイルス感染症に立ち向かう

多可赤十字病院 看護部長 森本 敦子

兵庫県では、新型コロナウイルスの感染拡大により、医療提供体制がひっ迫し、多くの方が入院できずに施設や自宅で待機される状況が続いています。

当院の位置する北播磨地域でも、学校、医療機関、高齢者福祉施設などでクラスターが発生しました。第4波では多可町内のコロナ感染者の増加が顕著で、新型コロナウイルス感染症指定医療機関以外でも感染者を受け入れざるを得ない状況になっています。医療設備・構造も感染防御には不十分で、その上マンパワーがなく慢性期医療を担っている当院でも、地域住民の健康と命を守る赤十字の使命を果たさなければなりません。

医療設備に関しては、クリーンパーテーションや空間除菌装置の購入、ゾーニング対応のパネルや監視モニターの設置、ご家族との面談のためのiPad購入等々、今当院でできる限りの整備を行い、感染防止対策に努めています。病室内にトイレ設備がないため、兵庫県支部からも災害救援用簡易トイレの提供を受けるなど支援をいただいています。



▲iPadを用いた面会の様子

人材確保に関しては全国の赤十字施設から、看護師派遣をいただき、新型コロナウイルス感染を院内に持ち込まない人員体制を整備し取り組んでいます。特に、姫路赤十字病院・神戸赤十字病院からは継続したご支援をいただいております。県下の赤十字がネットワークを強化し、できる限りの支援をする」との心強いエールに支えられています。これらのおかげで幸いにも院内感染の発生はなく通常の診療医療は継続できています。

高齢者の看護・ケアは、食事、入浴、排泄の際に身体接触が避けられない上、認知症等で意思疎通が困難な方も多く、労力や時間を要します。私たちは、しっかりとした感染防止対策を行いながら、コロナ禍であってもご家族の絆は大切にできるように配慮しながら、必要に応じてiPadを用いた面会にも取り組むなど、高齢者に寄り添った看護業務にあたっています。職員は新型コロナウイルスに感染しないが不安を抱えながらも、赤十字間のネットワークに支えられ、地域住民に安心していただけるよう懸命に頑張っています。皆さまの温かいご支援ご理解をお願い申し上げます。



神戸赤十字病院 新型コロナウイルス感染症専門病棟の今

神戸赤十字病院 看護師長 片岡 千佳

地域の皆様には、連日、たくさんの物資のご支援や応援メッセージをいただき、ありがとうございます。温かい励ましのお気持ちに支えられ、今を迎えることができました。

昨年度、神戸赤十字病院では、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。多くの職員が心身ともにダメージを受け、そこから職員一丸となって、当院の感染対策を強化しながら今に至っています。当院の感染症専門病棟では、クラスター発生の経験から、2020年11月に兵庫県指定新型コロナウイルス感染症重点医療機関として再編成された病棟です。この病棟の役割は、クラスターや2次感染を起こすことなく、新型コロナウイルス感染症患者さんへ治療と看護を提供することです。私たち看護師は、院内感染予防に努めるだけでなく、非日常的な環境下で療養生活を送る患者さんが、少しでも安楽に過ごせる看護を目指しています。例えば、当院の売店が宅配サービスを行い、個室隔離の必要な患者さんが少しでも日用品の不自由なく、嗜好品も食されるよう対応しています。



▲新型コロナウイルス感染症専門病棟の様子

また、他病棟と同じようにオンライン面会を活用できるシステムも導入しています。さらに、感染予防の観点から、患者さんとの接触時間を最小限にしながら、理学療法士と共に筋力低下予防のリハビリに取り組んだり、吸引や清潔ケアなど効果的な看護ケア方法を検討しながら実践しています。そのほか、5月末をもって終了した取組ですが、自宅療養をされている地域の方々へ、少しでも療養中の不安が軽くなるよう訪問診療を行い、治療と看護を提供しました。社会の感染状況が変化中、自部署の対応も柔軟に変化させ、患者さんのニーズ、社会のニーズに応えるため、さまざまな職種とともに日々カンファレンスを重ねています。日々変化する社会情勢に対応できるのは、使命感の高い看護師の力だと思っています。

しかし、時に患者さんの望む治療や看護が提供できない場合に直面することがあります。その時、私たち看護師だけでなく、患者さんに寄り添っている医療従事者はとてつもないジレンマを抱えます。悩み、苦しむこともありますが、他職種も含めて互いに話し合い、支え合うことで乗り越えています。

このように新型コロナウイルス感染症専門病棟では、他部署、他職種、すべての職員に支えられ、専門病棟としての役割を果たすことができています。今後もさまざまな職員の協力を得ながら、クラスターや2次感染を予防し、患者さんが少しでも安楽に過ごせる看護を目指してまいります。



▲さまざまな職員とのカンファレンス風景